

■■■ 日本人（日本国籍者）の多様性と日本の人種差別を学ぶ～シチズンシップ教育プログラムを高校で実施～ ■■■

今年2月8日、甲南高校の1年生30名に「KFCシチズンシップ【多（他）文化共生】教育プログラム」を実施してもらいました。これは昨年からKFCで開発中の教育プログラムで、日本で暮らす外国ルーツの移民や外国籍者を同じ日本社会の構成員ととらえ（移民社会・多民族社会としての日本）、その課題を参加型のワーク・ショップで学んでもらうものです。今回実施したのは「日本人と名前」というプログラムで、「孫正義」や「ダルヴィッシュ有」「Yoko Ono Lennon」など有名人のカードを用い、日本人（日本国籍者）の多様性と日本の人種差別の問題を考えてもらいました。

この2時間のプログラムを作る上で大切にしたのは、生徒たちが関心をもって議論し、積極的に参加できることです。黒板にはられた顔写真に「誰だろう？」と注目し、心が動かされるストーリーに出会い、問題について一緒に考える。そして、「人種差別」や「単一民族国家観」のような言葉で課題を理解する。生徒が真剣に考え、少しでも自分事にするためには、講義型の授業よりも参加型の授業の方が優れています。また、最近ではこうした参加型の授業が高校でも推奨されており、よいプログラムを作れば他校でも使ってもらえます。

今回は、対象の生徒がグローバル・コースという短期留学を念頭においた生徒たちということもあって、熱心に参加し、グループで議論してくれました。例えば、なぜ人種差別が起こるのかについて、親の影響や子どもの同質性など色々な意見が出ました。差別の防止は難しいテーマでしたが、幼児期からの教育という意見が出て嬉しかったです。

授業後の無記名アンケートでは、「勉強になりましたか？」について、「たいへん」22名（73%）、「まあまあ」8名（27%）と評価が高く、「興味をもって学べましたか？」についても「たいへん」18名（60%）、「まあまあ」10名（33%）という結果で、おおむね狙い通りの授業ができたと思います。年末のテレビ特番で人気お笑いコンビダウンタウンの浜田雅功が黒人俳優エディ・マーフィーに扮して顔を黒塗りにした問題についても授業でふれましたが、「授業内容で印象に残ったこと」の自由記述で、「ガキの使いのようなふだんのところでも人種差別があったこと」と複数の生徒が書いてくれました。他方、「もっと学生が知っている内容で話して欲しかった」のように、授業で取りあげている人物が古すぎるという意見もあり、登場人物の人選の難しさを感じました。この他、「グループ・ワークがあったのがすごくよかった」、「日本は単一民族国家観ということがすごく印象に残った」、「日本人は人種差別に対する意識が低いこと」、「同化ではなく統合」などの感想を書いてくれる生徒がおり、励みになりました。さらに改良を加え、教材化を進めていきたいです。

（KFC理事・灘中学校・高等学校 片田 孫 朝日）

■■■KFC日本語プロジェクト■■■

◆日本語学習ボランティア、中国・西安で体験～山本富博さん

定住外国人の日本語学習支援はKFCの大きな役目ですが、海外で教えた経験を持った支援者もいます。今回、2年前に中国で日本語教師のボランティアに携わり、今年4月からベトナムで再度、ボランティアを担う予定という山本富博さんに現地での日本語学習の様子などを聞きました。

Q 中国中央部陝西省西安（かつての長安）で2016年7月から3か月間、日本語を教えられるようになったきっかけは？

A 自治体交流事業で中国に3か月滞在した妻を通じて西安で技能実習生の事前研修施設を営む中国人実業家と知り合い、「日本人と話す機会のほとんどない研修生たちに生の日本語に触れる機会を与えたい」と講師役を求められました。定年退職した直後で、海外での居住体験に興味があったので引き受けました。

Q 町の様子、現地の気候は？

A 西安は人口800万人の大都市。都市近郊は開発が進んでマンションが立ち並んでいますが、研修施設は中心市街地から車で南西に小一時間ほど離れた田園地区にあります。周囲にはブドウやスイカの畑が広がり、遠くには中国大陸中部を東西に貫く秦嶺山脈が見えます。夏で暑かったのですが晴れた日が多く、湿気は低く、日本よりも過ごしやすかったです。日本の街と比べて若い人が多く、地下鉄でよく席を譲られるなど、高齢者が尊ばれている様子が伺えました。反日感情は全く見られませんでした。

Q 研修生の人数や年代、クラスの様子、動機は？

A 研修生の数は時期によって異なりますが最大80人程度。ひとクラス10-20人。年齢は10代後半から40代までで、約8割が女性。20-40代の女性は宮崎県の縫製工場へ派遣される予定でした。日本で得られる賃金は現地の3-4倍らしく、短期間でそれなりの金額を貯金出来ることが魅力的に見えるらしいです。子どもは、親や夫に預けてくる、といます。独身の若い人は、介護や水産加工、プラスチック加工など職種が広く、派遣先も全国に広がります。若い人は、アニメで日本に強いあこがれを抱いている人が多く、来日が待ち遠しい様子でした。

Q 研修生の日本語レベルは？

A 平仮名・カタカナの読み方はほぼ全員が理解できますが、10人いれば上位3人は会話が成り立ちますが、下位3人は限られた単語しか理解していない様子でした。実習生の場合、仕事で日本語を頻繁に使うことが想定されていないので、（K F Cの生徒のような）切実感はそれほど持っていないのかもしれませんが。自分の自己紹介を日本語で丸暗記して、最後に「がんばります」「よろしく願います」と元気な声で付け加える姿がほほえましかったです。

Q 講師としての待遇は？

A 研修生と同じ寄宿舎で寝食をともにしますが、食事と寄宿舎内の個室は無償でした。ボランティアなので講師代はありませんが、遊興費（お小遣い）が支給されました。日本からの交通費・土産代など10万円ほどが持ち出しになりました。

Q 学校の授業のコマ数や役割などは？

A 平日は1コマ50分で、午前と午後に2コマずつ。日本語が堪能な中国人講師が文法や会話の基本を教える役割を担っていましたので、実践的な会話の練習を中心に教えました。

Q 授業の準備は？

A 2か月ほど前からユーチューブで教授法の番組を見たり、初級学習者用の教科書を読んだりしましたが、一見して簡単な内容だったので、なんとかなると思っていました。

Q 実際に授業をしてみた感想は？

A 日本語の基礎を教えることの難しさを痛感しました。日本語の知識を持っていることと、教えるノウハウを持っていることは全く別でした。

Q 4月上旬からベトナムで3か月間、日本語を教える予定と聞きました。きっかけは？

A ボランティア仲間の知人がベトナムで事業を営んでおり、その紹介で技能実習生に日本語を教える機会を得ました。

Q 今後の目標・抱負は？

A 健康が続くなら75歳ごろまで、毎年3カ月間は海外、9カ月間は日本で日本語ボランティアに参加したいです。ベトナムでは、KFCが制作した生活日本語テキスト「なでしこジャパニーズ」を活用して、実習生の来日前の学習支援を手伝い、自分の教える力も磨きたいと考えています。

(聞き手 野崎 アミターブ)

KFCでは、8月に主催する「『多文化共生』を考える研修会」で、技能実習生問題を取り上げる予定です。

■■■ KFC外国にルーツを持つ子どもの学習支援 ■■■

◆高校進学状況

この4月にまた高校生7人が誕生しました。今回は、公立高校へ5名（芦屋、伊川谷、須磨翔風、東灘、定時制摩耶兵庫）、私立高校へ2名（龍谷、村野工業）進学することになりました。KFCの卒業生の中にも高校を中退してしまう生徒がまだたまにいます。中退の理由は様々ですが、高校でよい出会いに恵まれ、無事卒業できるように願っています。（志岐 良子）

■■■ ハナの会 ■■■

◆ヨモギ餅

山菜の季節です。ハナの会のハルモニたちはこの季節になると山菜の話題で持ちきりです。「山菜でこんなものを作ったよね」「こうしたら美味しいよ」各々で楽しい会話をしています。ある土曜日に1人の利用者の方が大きなすり鉢を抱えてデイに来ました。「ヨモギを摘んできたから、今日のおやつはヨモギ餅を作ろう!!」。スタッフや利用者に手順を教えてくれ、ヨモギ餅を作りはじめました。それぞれが懐かしいねと話しながら、ああしよう、こうしようと相談しながら、皆で協力し、あっという間に出来上がりました。とれたての新鮮なヨモギの香りがするお餅を、皆で「懐かしいね」、「おいしいね」といただきました。お代わりもいつもより多かったです。

もの作りをしていると、ハルモニたちが生き生きと、その笑顔を見られることが、私たちスタッフの喜びであることを再確認できた日でした。（鮑 少君）

■■■ KFC中国帰国者支援事業 ■■■

◆帰国者の集いに参加し、医療相談を行って

私が帰国者の集いに医療相談というかたちで訪問するようになったのは、昨年の中頃からでした。他の看護師と日替わりでひと月に1～2回の訪問でした。

初めの頃は特に、毎回緊張していました。それというのも、私は中国語が勉強不足で、看護師としてもまだまだ未熟だからです。しかし太極拳などを一緒にしたり、皆さんの過ごされる時間をわずかながら共有させていただいたりする中で、集いの場に慣れてきました。通訳が必要な場合は参加者の方とフフさん、季さんの力をお借りし、本当に感謝の思いです。

3月の明舞センターでの集いの時は、体操を担当させてもらい、皆さんの体の柔軟さに驚くと共

に、これから体操などを担当して、出来ることがあれば、という目標と希望の気持ちが芽生え、嬉しく思いました。血圧を測らせてもらい皆さんとお話していく中で、お名前を覚えた方や、よく来てくださる方も増え、とても嬉しく思っています。皆さんと交流するなかで、少しでも看護師としてお役に立てることがあれば幸いと思っています。

(訪問看護ステーションはれ 看護師 難波 博愛)

■■■ グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ ■■■

◆花のじゅうたん

4月4日、ノエビアスタジアム神戸の御崎公園でお花見をしました。今年は、いつもより開花が早く、満開から一週間も過ぎていて、花の具合がどうだろかと思いつつ当日を迎え、散る花びらを満喫するお花見になりました。朝早くからスタッフ手作りのお弁当を準備して、利用者様たちは車に乗って楽しそうな様子で明るい雰囲気にはっていました。

公園に到着して車を降り、目の前を見た利用者様に一斉に笑顔が出ていました。地面一面の鮮やかなピンク色の花びらを手に取って、さくらの「シャワー」を浴びていました。池側のベンチに場所を確保、それから歩行グループと車椅子グループに分かれ、私は歩行グループにはいました。

通りの桜は景色が美しく、絵に描いたようで、利用者様もいっぱい写真を撮っていました。ゆっくりお花見を楽しみ、戻ったらお弁当タイムです。美味しくいただきながら、池で遊んでいる子どもたちの可愛い姿を見て、思わず靴を脱いで一緒に遊んだり、会話をしたりして過ごしました。昼食後、集合写真を撮りました。帰り道は、写真を撮りながら、自分の鞆の中に花びらを入れて持ち帰る利用者様もいます。私自身は、利用者様が疲れないうか、前日まで緊張しましたが、みなさんと楽しく過ごすことができました。(野原 芳)

■■■ 今後の予定 ■■■

■総会

5月26日(土)17:45~18:45学習会

「シチズンシップワークショップ体験」

片田 孫 朝日 (KFC理事・灘中学校・高等学校)

18:45~19:45 2018年度総会

■多文化子ども共育センター

5月26日(土)13:30~17:00フィールドワーク

■帰国者新長田交流会

5月20日(日)16:11ごろから

神戸秧歌(ヤンガー)隊としてパレード参加

神戸まつりメインフェスティバル

■グループホーム・小規模多機能型居宅介護八ナ

5月19日(土) グループホーム遠足

22日(火)、23日(水) 小規模多機能遠足

※いずれも須磨水族園

5月28日(月)～6月1日(金) 利用者作品展 韓国民団1階

30日(水)13:00～15:00 作品出品者との交流会 グループホーム内リビング

6月7日(木) グループホーム外食 (木曾路)

7月1日(日) 第5回家族会